

保護者有志とともに副市長へ要望書を提出、芥川小学校学童保育室3室目の整備が決定

- ・芥川学童保育室3室目、開室に向けた予算案可決（750万円）
- ・今春～3室目開室までの間、待機児童を発生させない暫定取り組みを確認



高槻市立芥川小学校学童保育室は現在2室開室し、弾力化対応として既に各60名での運営を行っていますが、入室において1年生優先にもかかわらず待機児童となった家庭、2、3年生で待機児童となった家庭、放課後の預け先が見つからず、仕事を辞めざるを得なくなった家庭が発生しています。そのため、本年入学されるお子様をもつ保護者、今後も学童保育の利用を希望される保護者の方々から不安の声が上がっていました。

このような中、昨年、保護者有志により「芥川小学校の学童保育の充実を求める保護者の会」が結成され、待機児童の解消を求める署名活動を、地区内の夏祭り・地藏盆等で行い、1712名のご賛同・ご署名を集められました。

私（太田）は、有志の方々からのご相談を受け、署名活動に協力し、9月18日、その要望書と署名を副市長に提出する際に立ち会うと共に、9月議会の一般質問にて、この問題に対する市の姿勢を正しました。その後も、行政担当課に対し、待機児童解消に向けて対応策を提案してまいりました。

結果、12月定例会にて、3室目の設計費として750万円の補正予算案可決と、今春～開室までの間、待機児童を発生させないための暫定取り組みを確認してまいりました。

これからも、市政に対する市民の皆さまからの困り事・ご相談・ご提案にしっかりと耳を傾けるとともに解決に向けて、皆さまと市政のパイプ役として一緒に取り組んでまいります。

芥川公民館がバリアフリーになります!!

誰もが集える施設へ

—地域福祉活動拠点の完成—

平成22年当時、地域福祉活動を推進する上で多くの課題がありました。身近なところで福祉の相談ができる環境を多くの方々から望んでおられたことから、同年高槻市議会第5回定例会にて、その課題を指摘し、すべての公民館・つどいの広場・コミュニティセンター等を地域福祉活動拠点としてバリアフリー化することを、本市議会で提案しました。

以前、芥川公民館は障がい者トイレが2階に設置されておりますが、急な階段を上らなければならず、体の不自由な方が利用できない状態でした。現在、工事中の芥川公民館はバリアフリー化に向けて、エレベーターやスロープ、障がい者・高齢者の方が使用しやすい多目的トイレの設置等、地域住民の皆様が利用できる施設へと生まれ変わろうとしています。

地元の強い要望を受け、私（太田）がマニフェストに掲げていた地域福祉活動の拠点整備の施策が実を結び、いよいよ本年3月21日にリニューアルオープンいたします。

多くの皆さんにご利用いただけることを願っております。



エレベーターの入口



高槻市内で生後1カ月乳児への虐待・・・

児童虐待防止の抜本的対策を問う



平成26年11月、市内在住の男性が、生後1カ月の乳児に暴行を加え、意識不明の重体にさせた疑いで逮捕されるという事件が発生しました。この発生を受け、市に対し、以下の一般質問をしました。

1. 事件の経緯と市への対応 …「未然に防ぐことができなかったのか」について問う

（市の回答）…平成25年12月下旬、当該家族の本市転入の際、前住所地の母子保健部門より、本市こども保健課に、出産準備等の支援が必要との申し送りがあり、同課で支援を開始しました。2月中旬出産前後まで、母子に対し、2回の自宅訪問や、電話での状況確認等の支援を、医療機関と連携し行っていました。

2. 児童虐待防止の取り組み状況 …「職員体制や、警察との連携」について問う

（市の回答）…各種啓発活動の他、職員体制を平成19年度の8名から現在の15名に、社会福祉士等の専門職を増員。また、多様化する相談内容に対応するため、職員に対して継続的に専門研修を実施しました。警察との連携については、「児童虐待防止連絡会議」において、現状の把握や各機関の役割分担の再確認を行うなど、対応の充実を図っています。

3. 児童虐待の発生状況 …「子育て総合支援センター開設後の、児童虐待の相談件数の推移」について問う

（市の回答）…全国的に、児童相談所への相談件数が増加し、子どもの命に関わる事例も多数発生している中で、本市「子育て総合支援センター」においても、児童虐待の相談対応件数が、センターを開設した平成19年度が93件、平成25年度が464件、通告件数は、平成19年度が43件、平成25年度が155件と増加しました。

市への要望

平成23年度の高槻市人権施策推進審議会において、市に対し質問をした際に、子どもの権利を守るための条約制定はせずに、次世代育成支援行動計画と一体的に策定するとの答弁がありましたが、児童虐待防止の予算を増やし、各施設と常に連携をしっかりとれている吹田子ども家庭センターと同様の施設が本市にも必要になると要望しましたが、その後も特段の改善が見られず今回のような事件が起きました。

今後については、抜本的な対策を講じてもらうことを強く要望します。

私（太田）は、これからも子どもの権利を守り、児童虐待を無くす施策を推進します。

（資料：高槻市立子育て総合支援センター）

